

令和4年1月28日

世田谷区立喜多見小学校

校長 小俣 和也 様

世田谷区立喜多見小学校

学校関係者評価委員会

委員長 坂本 雅則

令和3年度 学校関係者評価 報告書

このたび行いました「令和3年度 学校関係者評価」について下記の通りご報告いたします。

<学校関係者評価とは>

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された学校関係者委員会が行う評価を言います。

- 目的・学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ・学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
 - ・学校の教育の質の向上に努めること。

令和3年10月に児童、全児童保護者、及び地域の皆さんにご協力いただき実施された「学校関係者評価アンケート」の調査集計結果及び学校より提出いただいた「自己評価報告書」「重点目標の自己点検」、あわせて教員の方々からのヒアリングをもとにその分析・評価を行いました。また昨年度より続く新型コロナウイルス感染症拡大により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化したことを踏まえて、議論いたしました。

<令和3年度 評価委員会総括>

【学習面について】

通塾率・家庭学習の低さがアンケートより読み取れる。これは保護者の子どもに対する学習意識の低さとも感じられ、これは喜多見の地域性なのか昔から変わらない。学年に関係なく、公園で夕方まで元気に遊んでいる姿が見られ、子どもらしく元気に遊んでいることが良い反面、学習面への不安も感じる。

学校側から出される宿題の量も、家庭学習を十分に行うには足りていないケースも見受けられる。

喜多見という環境は、近隣に塾が少なく、塾の送迎に保護者が時間を取りれないなどの理由も、通塾率の低下に影響しているのではないか。また、近年習い事が多様化しており、学習塾という括りではなく、スポーツや芸術の習い事に力を入れている家庭も多いことも遠因と考えられる。

「通塾」という項目の問い合わせの意図するものが不明であるが、学習時間が少ないと現象が起きていることについては、学年相応の学力の定着を図るために、学校や家庭での対応を検討する必要がある。

【PTA活動への保護者の意識】

「PTA活動への協力」という点で、協力できているという回答が半数であることをどう捉えるか。協

力しない保護者が多いということも考えられるが、以前より喜多見小ではポイント制度を導入していることもあり、保護者が PTA 活動に参加する機会が多くあった。だが、今年度は保護者の参加できる活動は自粛していただき、活動意欲のある人が物足りなさを感じている、あるいは参加できなくて申し訳ないという気持ちからの回答とも推測できる。コロナ禍で参加する機会がない日々が続くと、今後以前のように PTA 活動が活発になった際に、再び積極的に保護者が参加してくれるのかという不安もある。

【労作活動について】

児童の労作活動に対して否定的な意見が多かったのは、時代の変化によって子どもたちのニーズと労作活動が合ってないのではないか。学区内の畠も減ってきており、労作活動における環境も変わってきている。そのような環境の中でも喜多見小では、ペットボトル栽培や校内の畠作業、しいたけ栽培など、労作活動の取り組みは充実している。中高生になると土に触れることにも抵抗感を示す子もあり、小学生のうちに土と触れ合う時間が取れていることは良いことだと考える。しかし、収穫量の不足や収穫したものを家庭へ持ち帰って終わってしまうという現状もあり、労作活動からの楽しみや達成感を味わう機会が少ない。コロナ禍で難しい問題ではあるが、収穫したもので調理実習や、児童が楽しめる工夫を取り入れていき、労作活動を有意義のあるものとし底上げをしていけたらよいのではないだろうか。

【交通ルールについて】

児童の交通ルールに対する意識は高い。しかし、保護者の目線でみると、危ないと感じることが多く見受けられる。これは、子どもと大人の考える交通ルールへの認識の差が出ているからではないか。子どもの安全を守るためにも、日常での子どもへの指導が必要である。各家庭や学校での指導に合わせ、あいさつ運動時の見守りや集団下校の際を活用して、危険個所の確認や危険行動への注意等を、理由も踏まえて子どもへ伝えていく必要性がある。

【保護者への学校の情報提供について】

今年度学校の様子は、ホームページや YouTube 配信などを通じて保護者へ伝えたことで、保護者の満足度が高いことが分かった。これには、PTA 発行の広報誌も大きく貢献したのではないか。学校の重点目標の周知度や将来への取り組み授業など、保護者に伝わりにくいくらいの部分も見えてきているので、PTA の保護者への配信手段とうまく組み合わせていくことで、周知度が低い部分も補えていけたらよいと考える。

＜まとめ＞

喜多見小学校は令和3年度に開校50周年を迎える。これまでの喜多見の教育活動のよき伝統を継承していくと同時に、時代の流れに合わせ児童のニーズに応じた教育活動を、今後も期待する。

様々な制限の中で児童はたくさんの不安や我慢を経験し、児童・保護者の考え方も変わってきている。評価委員会としても、今後の評価も慎重に意見交換をし、児童にとって楽しく実りある小学校生活

を送ることのできる環境づくりをサポートしていきたい。